

## 全国大会発表奨励賞

## 第54回全国大会[東京]'23 奨励賞受賞者挨拶

## Greeting from the Winners of Encouraging Prize

## 発表奨励賞受賞にあたり

張 嬌

(東京大学大学院総合文化研究科・認知行動科学)



このたびこのような名誉ある賞にご選出いただき、大変光栄に存じます。委員の方々にご場を借りてお礼申し上げますとともに、日頃よりご指導いただいている本吉勇先生、および長時間の実験にご協力いただきました観察者の皆様に心から感謝申し上げます。

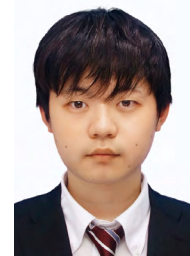
今回発表させていただきました「自然材質の代表色の知覚とそのメカニズム」は、人間が現実世界の様々な物体の代表色をどのように知覚するかという、色知覚の基本的な問題を検討したものです。布や毛髪や食物など現実の生活で目にする様々な物体の表面は複雑かつ不均一な反射特性をもっていますが、私たちはその表面の代表的な色を容易に答えることができます。従来の研究は色知覚を表面の物理的な反射特性の復元と定義してきたため、この最も日常的で生態学的に妥当な「色」の知覚は無視されがちでした。本研究では、基本に立ち戻って、120の様々な材質表面の写真とその統計量合成画像を用いて、代表色の知覚特性を心理物理学的に分析しました。その結果、知覚される代表色は原画と合成画像の間でほぼ等しく、代表色の知覚が単純な画像統計量に基づくことが示唆されました。総計360の刺激についての知覚データは、明暗の外れ値を無視した画像中の最大値あるいは平均値の彩度を強調するだけの単純な計算モデルにより予測できました。本研究の結果は、視覚系が陰影や3D形状などの情報に頼ることなく低次の画像統計量を巧妙に利用して複雑な表面の色を知覚していることを明らかにしました。

今回が色彩学会への初めての参加であるにもかかわらず、本賞をいただきましたことをたいへん嬉しく思います。この賞を励みに、今後も一層精進して参りたいと思います。今後とも皆様のご支援とご鞭撻を引き続きいただけますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 発表奨励賞受賞にあたり

花田 郁斗

(東京工業大学大学院工学院情報通信系)



この度はこのような名誉な賞にご選出いただき、大変光栄に存じます。本賞にてご選考下さった選考委員の方々にご場を借りてお礼申し上げます。また今回発表させて頂いた「自然画像における色彩の稀有性と抽象画の色彩選好の関係」の研究を行うに際して、日頃より様々なご指導をいただきました永井岳大先生、そして研究に関して様々なご指摘をいただくとともに、参加者として長時間にわたる実験に協力いただいた永井研究室の皆様にご心から感謝申し上げます。

今回発表させて頂いた研究は、絵画の色彩選好に関するものです。絵画の色彩統計量については、かねてより自然画像との類似点が指摘されてきました。そこで今回は、絵画の色彩の「自然画像らしさ」と絵画選好の関わりに着目しました。しかしこの色彩の自然画像らしさを表す客観的な指標は存在しないため、自然画像の色構成を学習させた機械学習モデルを使い、絵画の色彩統計量の自然画像らしさを定量化して、この指標が絵画選好に影響を与えるかを調査しました。今後の課題としては、この自然画像らしさの指標の詳細な検証を行い、絵画選好に影響を与えている具体的な色彩統計量を検討していきたいと考えております。

今回の色彩学会全国大会が初めての学会で、右も左もわからない中での参加でしたが、多くの興味深い研究発表や自身の研究を通して対話できたことにとっても刺激を受け、また本賞もいただくことができ非常に貴重な時間を過ごさせていただきました。また初めての学会にもかかわらず本賞を受賞できたのは、永井先生をはじめとする研究室のみなさまのご指導とご支援に恵まれたお陰であると身に染みて強く感じております。研究を行う者としてはまだまだ未熟なところばかりですが、この賞を励みにし、今回の学会発表で頂いた貴重なご質問やご意見も参考にして、今後もより一層研究に精進して参りたいと思います。